



令和5年9月4日（月）
生徒指導通信

時は金なり

約40日間の夏休みを終え、本日から2学期のスタートです。今年の夏は、酷暑日が続き心身ともにダメージを受ける夏でしたが、皆さん体調管理はしっかりとできていたでしょうか。

さて、皆さん、《時は金なり》ということわざを耳にしたことがありますか？

【時間はお金と同様に価値があること】をあらわすことわざです。時間はお金と同じように大切なものであるため、浪費してはいけないという戒めの言葉でもあります。皆さん、時間は無限に与えられているものだと思いませんか？そう考えてしまいがちになり、気が付きにくいだけで、時間は確実に減っています。「ぼんやり」「だらだら」「ゲームやスマホ」に時間を費やすのではなく、有意義な時間の使い方が大切です。この夏休みの時間の使い方を振り返ってみてください。

このことわざは、もとはアメリカの【ベンジャミン・フランクリン】の言葉だといわれています。政治家・物理学者・作家など他方面で活躍したベンジャミン・フランクリンは、アメリカ合衆国の父と呼ばれ、100ドル紙幣の肖像にも描かれるほど後世に名を残した人物です。彼は、【若き商人への手紙】と訳される手紙の中で【時間はお金そのものであることを覚えておきなさい】と記しています。



ここまでは、時間＝お金と紹介してきましたが、実は、《時は金なり》は時間の大切さを伝えるだけではなく、【機械喪失を注意喚起】することわざでもあります。具体的には、時間を失えばその時間で稼げる可能性のあったお金も失うという意味です。皆さんに当てはめて言うならば、「ぼんやり」「だらだら」「ゲームやスマホ」で過ごした日があったとします。もしもその時間を部活動で苦手な技術の反復練習をして克服できたとしたら、試合で良い結果が出せたはずが、出せずに負けてしまう。また、各教科の課題をこなすだけではなく、苦手な教科の学習をしていたならば、テストで良い点数を取れていたはずが、思うような点数が取れなかったという結果になると思いませんか。

《時は金なり》は、現在では時間は大切なものであるから浪費してはいけない、という意味で捉えられることが一般です。しかし、【ベンジャミン・フランクリン】が当時の若い社会人に対してもっとも伝えたかったのは、このような機会損失を避けることであるとされています。皆さんも【今しか体験できない、いろいろな機会】を大切にして、今後の学校生活を送ってくれることを期待しています。

最後に、夏休み前の終業式に生徒指導から皆さんに伝えたことを覚えていますか。『アヒル』です。実行できましたか？まだまだ甘いところが見受けられます。しっかり正していきましょう。

『アは挨拶・ヒは人の言うことを聞く・ルはルールを守る（時間厳守）』です。しっかり意識して実行していきましょう。